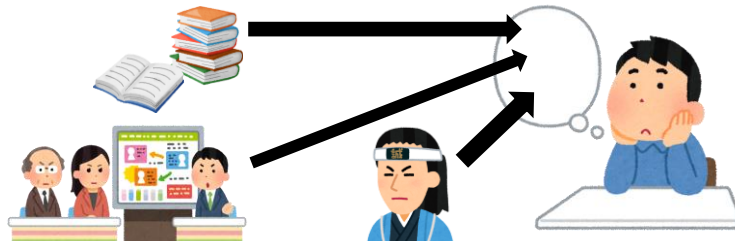


## 国語科より



臨時休業期間もすでに一週間以上過ぎてしまいましたが、生徒のみなさん、元気にお過ごしでしょうか？さて、生徒のみなさんはこれまで十数年間「国語」を学んできましたが、どうしてこれからも「国語」の学習をするか、考えたことがありますか？これまでの「国語」の学習を通して学んだことや知ったことは考え方や立ち振る舞い、興味関心といった目に見えない所に大きな影響を与えています。そんなみなさんの考えや思いを伝えるツールが「ことば」ですが、一人ひとりの心の在り方は千差万別で、同じ「ことば」を使っているにもかかわらずそこに込められたイメージが異なりうまく伝わらない場合もあります。だからこそ、より多くの「ことば」や知識を手にし、自分の考えを発信することにも積極的に挑戦してみてください。次の文章は、ある国語科教員がちょっと変わった形で今の思いを伝えようと挑戦したものです。

おもしろき こともなき世に おもしろく。  
すみなすものは 心なりけり。  
訳：この面白くない世の中を、自分の気持ち次第で面白くすることができる。



高杉晋作（1839～1867）

みなさんご機嫌よう。私は幕末で活躍した高杉晋作だ。志の為なら、逃亡、脱藩も繰り返す革命家など言われ、現代でもかなり有名である。今日は友人の竹田拓司さんから「臨時休業中の生徒へメッセージをくれ！」と言われて、黄泉の国から舞い戻ったのである。上の言葉は私が生涯を終える前に詠んだ、辞世のことばである。世の中では外出自粛が訴えられ、みなさんは毎日がきゅうくつでつまらないと感じているかもしれない。しかし、こんな世の中でも自分の気持ち次第で面白い自粛生活に変えることができるぞ。まずは今できること、できないこと、冷静に分析してみよう。そして、その中で挑戦したことのないものに取り組んでみるといい。そうすることで様々な発見や気づきがあるはずだ。目標を達成した時の喜びも失敗した時の悔しさもこれからの生活をより楽しむきっかけとなるだろう。それでは、健康にはくれぐれも気をつけて色々なことに取り組んでみてくれ。さらばだ！